



【問合せ先】第八管区海上保安本部交通部  
安全対策課長 大谷 良彦  
TEL 0773-76-4100 (内線 2640)

令和2年9月11日  
第八管区海上保安本部

## 「夏季の管内マリンレジャー活動状況の取りまとめ(総括)」 ～今期の事故の特徴と来期に向けた課題～

第八管区海上保安本部では、夏季(7月～8月)の管内マリンレジャー活動における事故の特徴について、以下のとおり分析しており、来期に向けた今後のマリンレジャーの事故防止対策に反映させていきます。

### 1 事故の特徴 [別添資料1～5]

- ◎ プレジャーボート等の船舶海難は33隻(うち死亡・行方不明0人)
  - ・ 昨年と比較して5隻増加
  - ・ 水上オートバイ及びシーカヤックは、昨年と比較して3隻増加
  - ・ 例年同様、機関故障が多く、定期的な点検整備や発航前点検で防止できた可能性がある船舶海難が全体の3割
  - ・ 夏季期間中、梅雨明けが7月末と遅れたこともあり、事故は8月に集中して発生
  
- ◎ マリンレジャー活動に伴う人身海難は43人(うち死亡・行方不明9人)
  - ・ 昨年と比較して16人減少
  - ・ そのうち、遊泳中の事故は33人で、昨年と比較して14人減少
  - ・ 遊泳中の事故の約9割が海水浴場外の場所で発生
  - ・ 遊泳中の事故のうち19歳以下が全体の約4分の1
  - ・ 遊泳者の事故のうち飲酒を伴っていた者は、その約4割が死亡
  - ・ 開設された海水浴場の利用状況は、全体的に例年より減少(部署を通じ管理する観光協会等に確認)
  - ・ 不開設海水浴場や開設期間を終了した海水浴場でも、遊泳者が存在(管内各部署等による巡回時に確認)
  - ・ 遊泳中の事故について、県別にみると、福井県で大幅に減少、京都府、島根県、鳥取県では増加
  - ・ 釣り中の事故は昨年同様4人
  - ・ 遊泳中の事故は気温が高く天候がよかった日(8月の三連休、8月月末の週末)に集中して発生

## 2 来期に向けた課題

### ◎ プレジャーボート等の船舶海難

水上オートバイやシーカヤックの事故が増加していたこと、定期的な点検整備や発航前点検で防止できた可能性がある機関故障等が多くみられることから、引き続き部署を通じ、海難防止講習会を実施するなど、各関係機関及び安全推進マリーナ等と連携して事故防止を図っていきます。

### ◎ マリンレジャー活動に伴う人身海難

遊泳中の事故について、今夏は新型コロナウイルス感染拡大防止のために例年開設される海水浴場が不開設となるなど、管内の約5割の海水浴場で不開設となり、開設された海水浴場の来場者数についても、全体的に例年より減少していました。

そういったなか、結果として遊泳中の事故は昨年よりも減少しましたが、遊泳中の事故の約9割は海水浴場外の場所で発生し、管内各部署が巡回した際にも、不開設海水浴場や開設期間を終了した海水浴場で遊泳する者が確認されています。

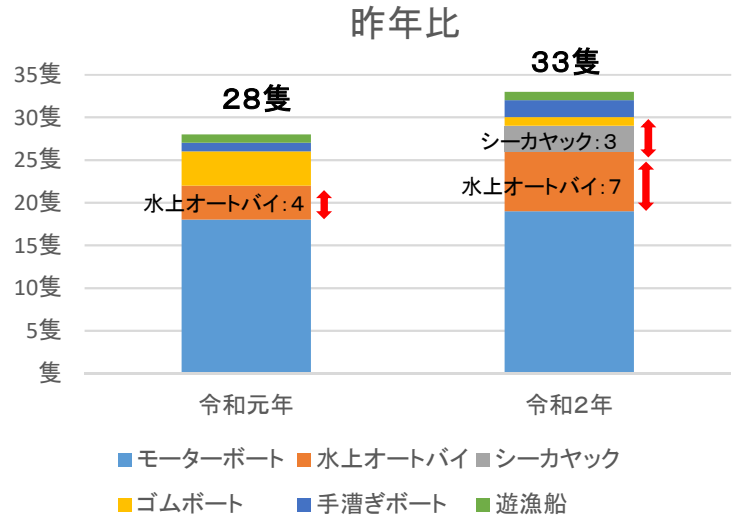
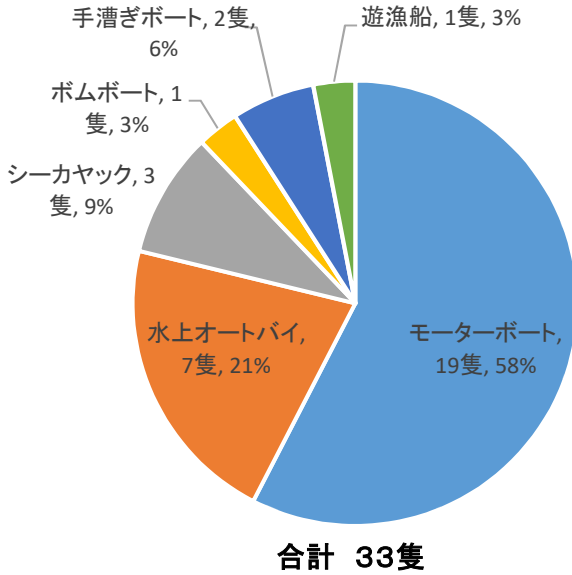
今夏は、夏季シーズン前から、自治体等への看板設置等安全対策の働きかけを行うとともに、巡回の実施など海浜事故防止啓発を実施してきましたが、不開設であることは認識しつつも、県外からの来訪者のなかには、せっかく来たからにはと、海水浴をしている状況も確認されましたが、結果的には県外から来た者の遊泳者の事故は、合計15人で全体の約5割で、例年約8割のところ減少していました。

また、今夏は、コロナ禍で、夏休み期間が短く、水泳授業も少なかったこともあり、教育委員会を通じて、小中高生へ「海で安全に楽しむため」の安全啓発活動を実施しましたが、結果的に19歳以下の遊泳者の事故は、死亡者は出なかったものの、合計8人と全体の約4分の1の割合と例年と同様の結果となっています。

これらのことを受け、来期に向けても、引き続き自治体、警察等関係機関と連携して、海浜事故防止にかかる啓発を実施していくとともに、教育委員会等と連携して、若年層の事故防止対策についても取り組んでいきます。

## プレジャーボート等の船舶海難 【用途別】

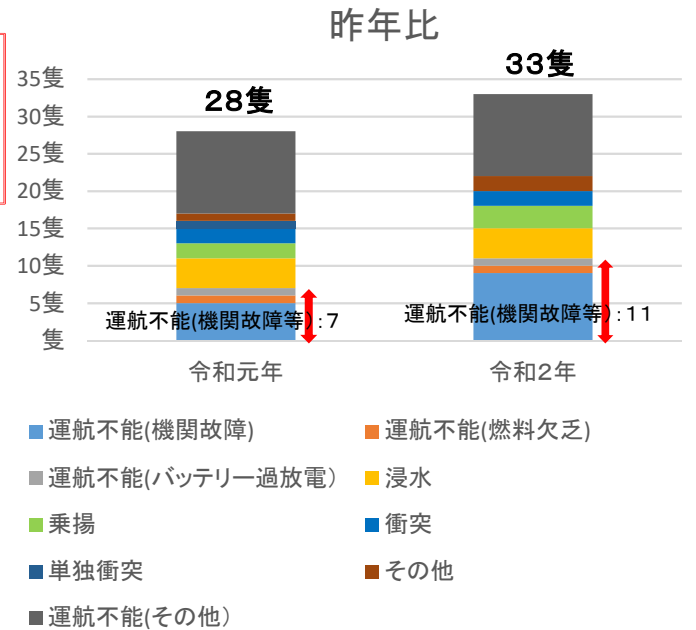
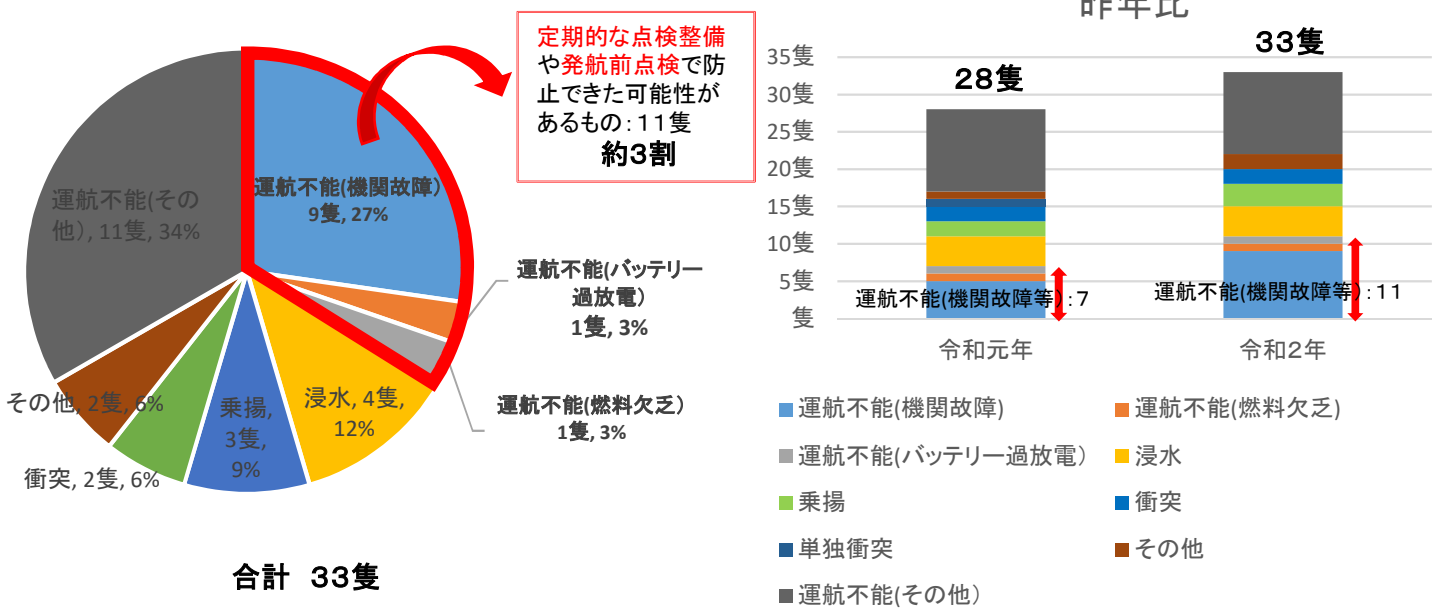
### <用途別内訳>



船舶海難は昨年から5隻増。水上オートバイは昨年の4隻から3隻増加、シーカヤックは昨年の0隻から3隻増加。

## プレジャーボート等の船舶海難 【海難種類別】

### <海難種類別内訳>



定期的な点検整備等で防止できた可能性があるものが11隻で全体の約3割、令和元年の7隻から4隻増加。

## プレジャーボート等の船舶海難の特徴

用途別に見ると、水上オートバイが昨年から3隻増加するとともに、シーカヤックも3隻増加していました。

水上オートバイについては、7月後半から8月中旬にかけて大怪我を伴う事故などが連続発生しており、主な原因としては、操船技術が未熟なまま高速で航行したことに起因していました。

また、シーカヤックが昨年から3隻増加していることについては、パドルアクティビティ愛好者が増加している一方、インターネット等で手軽に購入可能な状況にあり、知識や技術を身につけることなく海に出てしまうことが一因として考えられます。



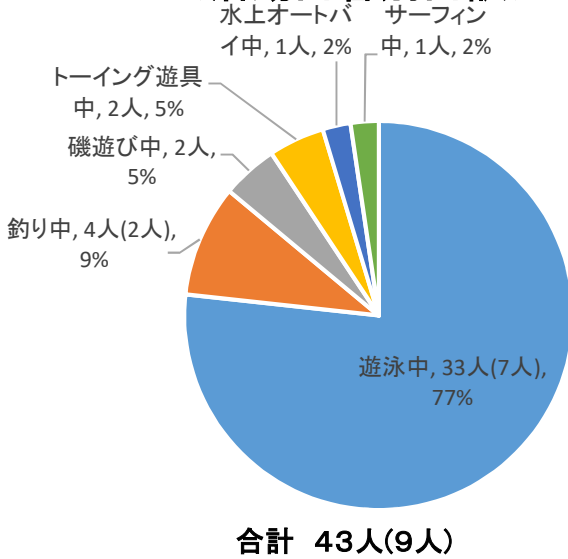
【令和2年7月30日発生】  
プレジャーボート事故時の救助状況

次に、海難種類別で見ると、定期的な点検整備や発航前検点検で防止できた可能性がある機関故障等が11隻と全体の約3割となっていました。これについては、昨年から4隻増加しており、海上においては、機関故障等で運航不能になることが命の危険に直結するという認識が定着していないことが原因と考えられます。

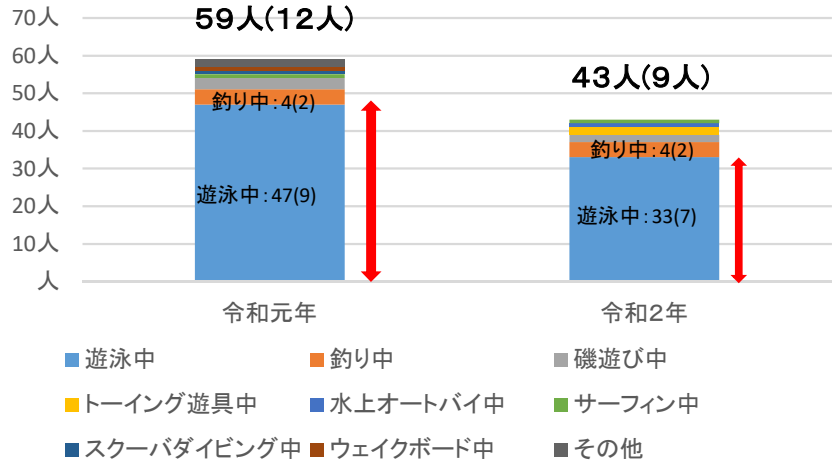
なお、7月から8月の全体で見ると、7月が9隻、8月が24隻となっており、8月に入り、梅雨が明けて晴天が続くなど、プレジャーボート等の活動に適した状況に恵まれた時期に事故が多くなっていました。

## 夏季マリンレジャー活動に伴う人身海難 【活動内容別】

### ＜活動内容別内訳＞



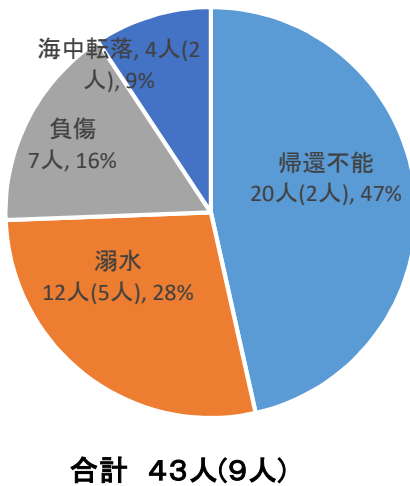
昨年比



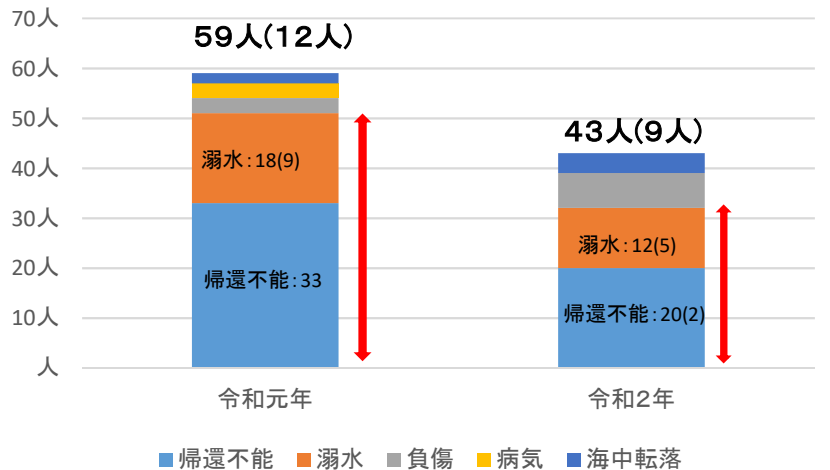
遊泳中の事故は昨年の47人から14人減少。釣り中の事故は昨年の4人から増減なし。

## 夏季マリンレジャー活動に伴う人身海難 【事故内容別】

### ＜事故内容別内訳＞



昨年比



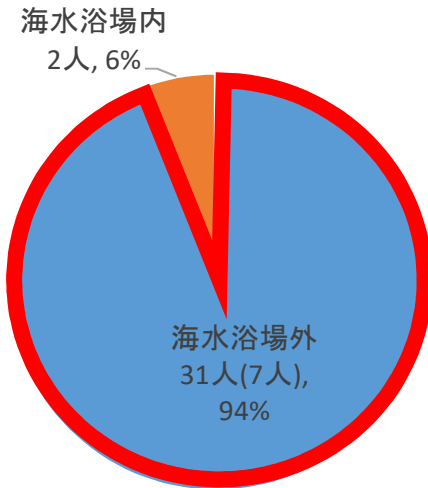
遊泳中の事故が減少しており、帰還不能、溺水が減少。

- ※ 帰還不能: 漂流、孤立等により保護が可能な陸岸に戻れない状態になった場合
- ※ マリンレジャー活動: 遊泳、釣り、磯遊び、ボートセーリング等の海浜における余暇活動及びプレジャーボート等による遊走等をいう
- ※ ( )は、死者行方不明者数

遊泳中の事故発生状況

※ ( )は、死者行方不明者数

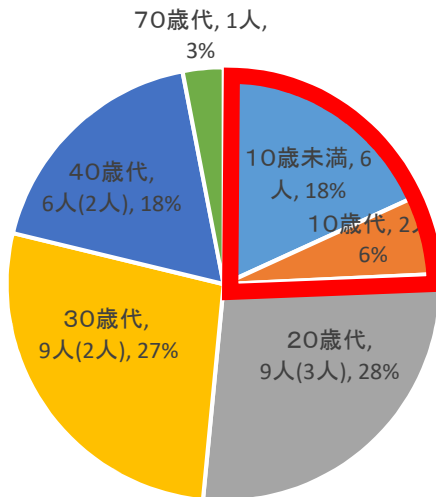
<遊泳場所別内訳>



合計 33人(7人)

遊泳中の事故の約9割が海水浴場外の場所で発生。

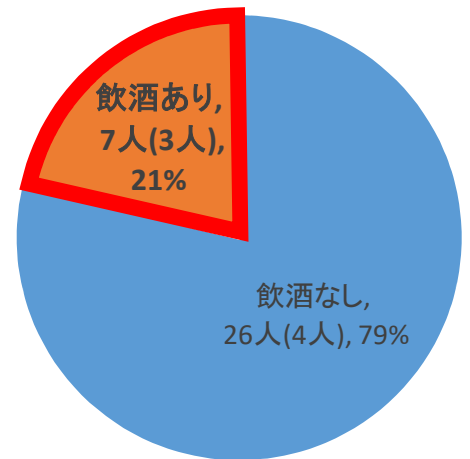
<年代別内訳>



合計 33人(7人)

19歳以下の事故者は全体の約4分の1を占める。

<飲酒割合>

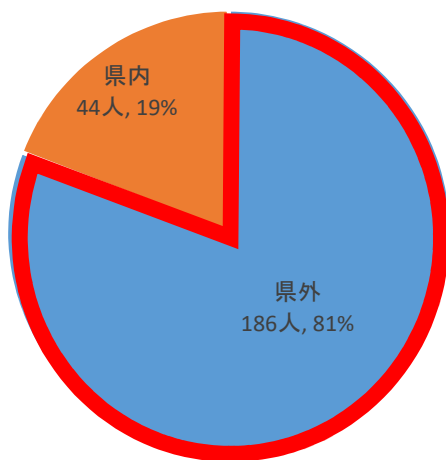


合計 33人(7人)

飲酒ありの事故のうち約4割が死亡。

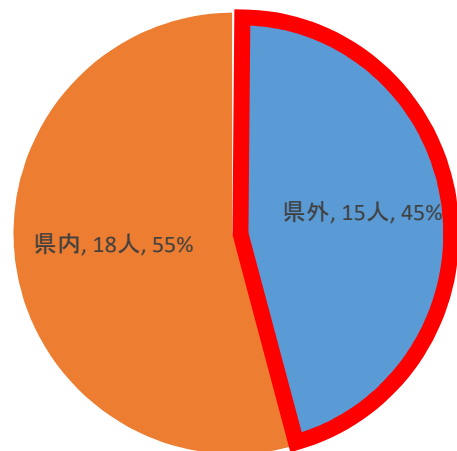
<居住地別内訳>

平成27年～令和元年  
(過去5年)



県外からの来場者による事故が約8割。

令和2年  
(今年)



県外からの来場者による事故は約5割。

## 夏季マリンレジャー活動に伴う人身海難の特徴

活動内容別に見ると、遊泳中の事故は昨年の47人から14人減少しており、釣り中の事故は昨年から変わらず4人でした。遊泳中の事故について、遊泳場所別に発生状況をみたところ、発生事故の約9割が海水浴場外の場所で発生していました。

また、遊泳中の事故にかかる事故者の年齢をみると、19歳以下が例年同様に約4分の1を占めており、若年層による遊泳中の事故が変わらず発生しています。

そして、事故に遭った遊泳者の飲酒状況をみると、飲酒後の遊泳者のうち約4割が死亡しており、やはり飲酒後の遊泳は、判断力、運動能力などが低下するため、命を落とす危険のある行為であることがわかります。



海水浴場における注意看板設置(石見海浜公園)

今夏の海水浴場の来場者数は、各保安部署を通じて海水浴場を管理する観光協会等に確認したところ、開設された海水浴場においては、福井県内で例年とおり、その他の地域では、来場者数が減少しており、鳥取県では昨年比約67%減の箇所もありました。全体的に例年より減少している状況でした。

なお、不開設海水浴場については、来場者に関するデータはありませんが、各保安部署職員による巡回等の状況から、多いところで100人程度の遊泳客が確認されるなど、不開設にもかかわらず遊泳している者が少なからずいて、開設期間終了後(8月下旬以降)にも、遊泳者がいることが確認されています。

各県の遊泳中の事故については、福井県で昨年比約9割減となる一方、京都府、鳥取県、島根県では増加する結果となりました。

また、事故者の居住地における県内、県外の割合については、例年県外からの来場者による事故が約8割を占めるところ、今年は、県外からの来場者による事故の割合は5割程度となっています。これは、コロナ禍において、県外から訪れる海水浴場が減っていることに起因するものと考えられますが、依然5割程度と高止まりしています。

なお、7月から8月の全体で見ると、梅雨明けが遅れたこともあり、天候に恵まれた8月の三連休及び8月末の週末に事故が多くなっていました。